

下野正基 著

やさしい 治療のしくみとはたらき 歯周組織編

長野県長野市・谷口歯科医院
山岸貴美恵（歯科衛生士）



A4判/136頁
定価（本体 4,400 円＋税）
医歯薬出版
（2013 年 7 月発行）

手にとってパラパラとめくったとき、まず目に入るのが“ミニ正基くん（親しみを込めて、私はそう呼んでいます）”です！“ミニ正基くん”コーナー（コラム）を読んでいると、筆者の下野先生に直接教わっている気分になります。“こういう難しい本って必要に迫られないと、なかなか開けないんですよ”と思っている方は多いと思いますが、そんなことはありません。このコラムを読んでいくだけでも、たくさんの生理学、病理学の知識を得ることができます。

本書は大きく「歯周組織のしくみと役割」「歯周病の原因と病態」「歯周組織の治療」の3つで構成されており、おのおのの章で、私たち歯科衛生士に必要と思われる事柄が解説されています。

本書は日々の臨床のなかで、ふと疑問を抱いたときの解決の手がかりとして最適であると思います。たとえば、患者さんから“簡単

そうだけど難しい質問”をされることがあると思います。「汚れを溜めると、どうして歯ぐきは炎症を起こすのですか？」——この基本的な質問に正しく、やさしく、わかりやすく答えることはできますか？ そんなとき、ぜひ本書を開いてみてください。いまだ人には聞けないようなことも、下野先生が教えてくださいます。

私たちは患者さんの歯肉をみていて、よく「硬い歯肉」「軟らかくて薄い歯肉」などと表現していますが、そもそも硬い歯肉、軟らかい歯肉って、何が違うのでしょうか？ この素朴な疑問にも、ばっちりやさしく答えてくれています。

また、使用されている図（イラスト）がカラフルで明解です。何度勉強しても、なかなか頭に入っていない“免疫”の内容も、イラストを見ていくと、スラスラ理解できます。す。「難しいことをやさしく、やさしいことをおもしろく書く」というコンセプトでつくられている本書は、講演会で聴く先生のやさしい語り口そのままに、私たち歯科衛生士が苦手とすることを教えてくれています。

日々、歯周治療・メインテナンスに取り組んでいる歯科衛生士であるならば、必ず手元に置いて毎日開きたい1冊です。

隅から隅まで精読、とはいかなくても、“ミニ正基くん”に遭遇しながら、興味のある箇所を読み、そして最後のページにたどり着いたときには、急に知識の引き出しが増え、“できる歯科衛生士”になれたような気分になりました！